

千葉歴史の散歩道

駅名に残る水運の歴史 ～「運河駅」と「利根運河」～

千葉県教育振興部文化財課指定文化財班文化財主事 まつうら まこと 松浦 誠



東武野田線は千葉県船橋市の船橋駅から埼玉県さいたま市の大宮駅までをつなぐ鉄道路線で、古くは千葉県野田市で作られた醤油を運ぶための貨物輸送の役割を果たし、近年は東武アーバンパークラインの愛称で知られる。

この路線には「運河駅」という駅名としては少々風変りな駅がある。運河といえばエジプトのスエズ運河など人工的に開削された河川を指すが、なぜそんな駅名がついたのか。

運河駅のある流山市は千葉県北西部に位置し、北に野田市を挟んで利根川・西には江戸川を有し、河川に囲まれた立地となる。利根川と江戸川は、千葉県の最北である野田市関宿でつながるが、江戸時代には高瀬船に代表される和船による水運が盛んで、活況は明治に入っても続いた。

こうした中で、利根川と江戸川の行き来にかかる時間を短縮し、利用しやすいルートを開発することが要望されるようになり、明治23（1890）年、利根川と江戸川をつなぐ人工の河川が開削された。これが「利根運河」である。利根運河の南約150mに位置する運河駅は、看板に偽りなく運河にあるのだ。

利根運河の開削には、教科書でもおなじみのお雇い外国人が関わっている。はじめにオランダ人土木技師のデ・レーケが担当技師を務め、やはりオランダ人のムルデルが役割を引継ぎ、事業を進めた。ムルデルは利根運河の構造に、閘門式（高低差のある河川を閘門の中で水位を調節して船を通す）ではなく、スエズ運河と同じ水平式を採用している。

竣工した利根運河は、明治24（1891）年には、年間37,590隻の船が航行するなど盛況したが、鉄道・トラック輸送網の発達や洪水の被害の影響で、現在は通船する運河としての役割を終えている。

しかし、利根運河を残そうとする市民の思いから、昭和60（1985）年には運河水辺公園が整備され、ムルデルの碑が建立された。運河駅の東口にある街路はムルデル記念通りと命名され、利根運河とともに親しまれている。

水運と鉄道。方法は違えども、互いに物や人を運ぶことで暮らしを支え、地域を豊かにする役目を果たしてきた。両方の要素を併せ持つハイブリットな「運河駅」には、「利根運河」に描いた人々の思いが受け継がれている。



現在の利根運河



ムルデル記念通り（左は運河駅）

千葉教育 葉 (No. 678) 令和5年2月2日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター（代表）神子 純一
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <https://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465